

平成 29 年度第 2 回 熊本市地域包括支援センター運営協議会会議要旨

- 1 日時 平成 29 年 11 月 21 日(火) 18 時から
- 2 場所 10 階会議室
- 3 出席委員 石橋敏郎、清田武敏、上野博久、大久保裕子、川上賢蔵、草間朱美、
坂本昌明、佐藤房生、田中弥興、柳楽雅子、林千佳子、堀田美波(敬称略)
- 4 議題 (1)地域包括支援センターの選考結果について
(2)応募法人のいない中央 4 圏域への対応について
(3)その他

5 議事録等(要旨)

〈事務局 地域包括支援センターの選考結果について説明〉

○会長

いかがでしょうか。

○副会長

今回、現在の中央 4 が応募していない状況だが、要因は把握しているのか。

○事務局

聞き取りをしたところ、三点の回答があった。

- ・ケアプランの上限設定による収入の減少により、ビジネスとして成り立たなくなる。
- ・母体が管轄圏域外 であり、法人への貢献が少ない。
- ・職員のメンタル負担が大きく、職員へ負担をかけたくないという思い。

○会長

もうかる仕事ではないからね。

○副会長

2 箇所の新規について、現在運営している包括から新しい包括へ移行するにあたり、地域とつながりなどを獲得するための特別な配慮はあるのか。

○事務局

現包括は利用者の状況含め、情報を把握しているため、1 月から 3 月にかけての引継ぎを十分にしてもらいたいと考えている。

○委員

新規と既存の包括の入れ替わりに伴う 2 点の懸念として、

- ・ 個人情報すべて引継ごうとしても、やはり漏れはある。
- ・ 地域とのつながり（関係）をつくるのは時間がかかる。

市としてのフォロー（後押し）が必要。そうでないと市にも苦情が来ることになりかねない。

○事務局

一部包括については、管轄校区変更によって新たに担当となる校区もあるため、そこへの対応も含めて注意していきたい。

対策については、ヒアリングでも聞き取りをしており、現在でも地域貢献をしているなどの実績も含めて採点をしている。

○委員

前回の協議会でも質問したが、同一法人居宅への利用者（要支援から要介護認定になった方）の紹介を優先性しないなどについては、今回評価に含まれているのか。

○事務局

サービスの選択をしてもらう体制

法人色を出さずに自己選択してもらうなど、利用者本位の選択をする体制でいるかを評価しており、実績については基本的には反映していない。

○会長

通知に点数は記載するのか。

○事務局

平均点と法人点数を比較していただき、振り返りをしていただきたい。

○委員

ヒアリングの結果に差があるが、出席者はどんな人？

○事務局

3 名以内とし、理事長、事務長、センター長などが多かった。

理事長へは応募動機、事務長へは職員へのメンタルヘルス体制、センター長へは重点的に取り組みたい事項などについて聞き取りをおこなっている。

○委員

法人名を伏せる意味は？

○事務局

法人に対する先入観の排除を目的とし、公正な審査を行うため。
書類審査についても、副本については法人名等を伏せている。

○委員

通知文の点数だけでは振り返りをするのは難しいのではないかと。

○事務局

書類審査の各項目における、回答例を提示する予定としており、これを見ることで自らの法人に不足している部分などが見える。

○

市民への結果の周知はどのように行うのか。

○事務局

市政だよりでの周知を想定。その他はやはり顔のつながりになるので、引継ぎがメインになる。

特に校区や包括運営法人が変わる包括については、早期に顔の見えるつながりを作ってもらうことが必要だと考えている。

○委員長

皆さん納得されるのではないかと。

○

点数に差がありますね。

○事務局

全体的な底上げが必要だと考えている。現在も各区ごとの研修などで資質向上をされているので、さらに発展させていきたい。

○

ささえりあ中でも職員が変わることがあるが、割と皆さん「職員が変わったんだよ」とお知らせすれば問題はないように感じる。

○委員長

こういった結果が出ているが、いかがでしょうか。

○一同

了承。

〈事務局 中央4圏域について説明〉

○委員長

やっても良いというところがあるので、そこを優先するべきか。

○委員

現在の中央4が応募しなかった理由からすると、母体法人から離れると運営が難しいことがあげられる。また、青照会の点数が平均点からすると低いことが懸念される。

今後再公募となった際に、どこも手を上げないという事態も考えられなくもないため、その場合を想定しておく必要がある。

○事務局

青照会については、確かに点数が低い。応募のときに、法人に対しては、その他の圏域の受託希望をとっている為、その点を考慮したい。

決まらなかったところが、地域的に母体法人がないため、今後どこも手を挙げないことも考えられ、その点をもっとも危惧している。

現在、募集する段階では、1法人1事業所というしほりがあるが、再公募してもどこも応募がない場合はそのくくりをはずして、運営をしてもいいという法人があれば、既存の26法人の中から選定して運営を任せることも考えている。

どこも希望する法人がなく、最悪の場合、市の直営となるが、市は母体を持っていないため24時間の対応等が難しい。できればどこかの法人に運営をお願いしたい。

○

母体がしっかりしているところは包括が少々赤字であってもやっていける。逆にそうでないところは赤字になると人を雇えなくなる。

人材不足のため、どの包括も資格を持っているなどの人材を求めており、結果として人件費が上がる。

市には、包括が人を集めることができるように給与アップの面も考慮してほしい。

○事務局

今回6年ぶりに包括の募集をしたが、財政当局とも話し合い、6年前に比べると給与アップをはかった。今後も尽力したい。

○

現職の中で2箇所なくなったが、チームは存在しているので再公募すれば、場所をかえて運営してもいいという可能性はある。また、再公募があるとの打診をしてはどうか。

○

他の法人が希望しなかったのは、この地域でないといやだということがあるのか。

○事務局

そうだと思う。地域にこだわる法人は多く、この地域でやってこそ意味があるという意見がある。

○

愛誠会も余裕がありそうだが。

○事務局

人と場所の確保もあるので青照会を断る場合は、他の法人にも声をかける予定。

○会長

希望があったところをお願いするか、また再公募するか。

○

青照会が手を挙げているので、優先的にしてはどうか。

○会長

「他のところは希望していないのに、うち（青照会）は希望しているのにうちに決まらないのか」との質問はないのか。

○事務局

いきなり公募すればそういうことになるだろう。

○

点数については職員の経験の話。若い人が少ない。（青照会が）せっかくやりたいと

言ってくれているので、それを無視せずに職員の確保等できているか打診して大丈夫そうであればそこでいいのでは。

○事務局

職員の配置は強みとしてもっており、ヒアリングの中でもそのような部分が見られた。

○

ケアマネージャーの試験合格率がどんどん悪くなっており、若者の成り手が少ない。主任ケアマネージャーはいなくなってしまう。主任ケアマネを配置しようと思えば、年がっている人を置くことになる。若手の配置は難しくなっている。

○石橋会長

職員の確保等きちんとできるのか確認して、きちんとできるのであればそこ（青照会）で大丈夫ではないか。

○一同

了承。

○事務局

青照会が受け入れずに再公募をした場合の運営協議会の開催はいかがか。

○会長

地域的に拒否する場合もあるのか。

○事務局

十分ありうる。再公募し、応募があった段階で会長と相談し、会長が開催との判断ならば開催するということをお願いしたい。（会長一任）

○一同

了承。